

「仏教に関する実態把握調査」

（二〇二〇年度）臨時調査①

日本テンプレヴァン(株)井上拓郎

「新型コロナウイルスによる」

影響把握」

新型コロナウイルスに対するワクチン接種も始まり、二回目の接種が完了している人は医療従事者、高齢者、一般と合わせて、一〇、三七一、九九八人（厚生労働省発表、六月二二日現在）となりました。日本国民の一人に一人が接種を完了している事になります、皆さんはお済になりましたでしょうか。

今回も前回に引き続き「新型コロナウイルス感染症が仏教寺院に与える影響」として「仏教に関する実態把握調査（二〇二〇年度 臨時調査）」についてご紹介したいと思います。（報告書は全仏のホームページにも掲載されております）

●お盆の影響把握（お盆の非実施理由）

お盆にお経をあげてもらわなかった理由のうち最も多かったのは、毎年お坊さんにお経をお願いする必要はないと思っていたから（三〇・四％）、次はお坊さんにお経をあげてもらおう意義がわからないから（一五・三％）でした。新型コロナウイルスが直接影響を及ぼした理由のうち最も多かったのは、不要不急の外出を控えようと思ったから（一一・〇％）、続いてコロナの影響で家

族・親族がナーバスになっているから（一〇・五％）となっております。お盆の非実施の要因は、コロナによる影響よりも、お盆の必要性やお経をあげてもらおう意義を理解していないといった理由のほうが高かった事になります。また毎年お坊さんにお経をお願いする必要はないと思っていたから（三〇・四％）と回答した方を、菩提寺あり（三〇・七％）と菩提寺なし（三〇・一％）で比較してみても、その差は〇・六％しかなく、お盆に対する意義や必要性について、菩提寺の有無に関わらず、深く理解されていない事が分かります。

●寺院との関係性からみる影響把握

（菩提寺のある方）

コロナの影響により中止した行事で最も多かったのは、菩提寺への参拝（一〇・二％）。次いで家族・親族の年忌法要（九・八％）、家系のお墓参り（九・七％）の順となっております。中止した際の気持で最も多かったのは、残念だが今後は開催されることを期待したい（四三・一％）でした。またコロナが収束後、一年以内に参加したい行事として、家系のお墓参り（六〇・三％）、菩提寺への参拝（三九・七％）となっております。その理由として、先祖を大事にしたいから（六四・九％）が一番でした。先祖を敬う気持ち、コロナ収束後の菩提寺との関わりへの期待がうかがえる回答でした。

「菩提寺との関わり」

●菩提寺の満足度と今後の付き合い方
菩提寺への満足度としては、満足四一・五％、不満九・八％となっておりますが、一番多かった回答は四八・七％の普通でした。この満足度ですが、コロナ禍においてお寺からの連絡の有無で比較すると、連絡ありの方の満足度は六一・四％、一方連絡なしの方の満足度は三〇・一％となっております。菩提寺から連絡の有無によって、満足度には倍ほどの開きがある事になります。

●菩提寺からの連絡経路と印象

菩提寺からの連絡経路（連絡方法）の中で、最も満足度が高かったのは、ハガキや手紙が来た（三五・〇％）、次いで電話が来た（一一・四％）となっております。その連絡に対する印象としては、心づかいが有難かった（四〇・五％）が最も多く、世代別では三〇代（四三・三％）、二〇代（四一・七％）の順に高い結果となりました。菩提寺からのハガキや手紙に対して、若い世代のほうが、心づかいに感謝し、満足している傾向にあるのは、少しでも明るいニュースと言えるかも知れません。

出典「仏教に関する実態把握調査（二〇二〇年度）臨時調査」（公財）全日本仏教会、大和証券（株）